

北海道原水協 FAX ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp
電話011 (747) 7557 fax011 (747) 7537 2018年 3月 3日

私たちが、禁止条約に参加する政府をつくらう

核兵器なくそう・・私たちが受け継ぐ決意新たに

2月27日に千歳空港を出発した北海道代表団8名(団長/斉藤浩司・北海道民医連)は、第五福竜丸展示館で研修してから静岡入りしました。「この木造の船であんな遠くまで行ったんだね」と見上げ、ごみの海に捨てられていた第五福竜丸を守ってきた歴史に一人ひとりが思いをはせました。展示館の前庭で潮風にさらされているエンジンの保存など、安田和也主任学芸員に質問があいつぎました。

東富士基地ウオッチングは、つんざくような轟音とともに目の前を20両近くの戦車が土ぼこりをあげ通過、中には手を振る隊員もいて思わず「緊張感ない!」との声も。凜とした富士山を見ることができたことは感激ですが、砲弾の音も聞こえ、着弾点の煙、炎を見て、戦争する国づくりのため演習をしていることへの怒りが共有されました。

28日開かれた日本原水協全国集会で、安井正和 日本原水協事務局長は①世界の70億人、日本のすべての国民を視野に署名運動を展開しよう、②被爆の実相普及をダイナミックに、③自治体意見書など、日本政府への働きかけをと、行動提起しました。写真/3・1ピキニデー集會会場前)



日本原水協分科会第6～ピキニ事件と原水爆禁止運動に参加した佐藤史織さん(23歳)は、



「運動を、特に青年にどう広げていったらいいのか」と悩んでいたため、勇気をもって質問しました。それを受けて積極的に応える意見が出て、分科会が終わってからいろいろ話しかけてくれる人がいっぱい、本当に発言して良かったと笑顔で話していました。北海道勤医労の石崎龍之介さん(23歳)、道北原水協の高橋睦美さんも同じ分科会で発言するなど、北海道代表団は積極的に参加しました。

3・1ピキニデー集會で第五福竜丸元乗組員の大石又七さん(写真右)が、「何としても憲法変えることは許さない」と亡くなった同僚の無念の思いとともに語りました。昨年の集會ではロビーで書籍販売もしていた大石さん、今年は自著『矛盾』が書籍コーナーにひっそりおいてありました。主催者あいさつの中で川本司郎・静岡県原水爆被害者の会会長は、会長を退任されることも報告しました。

→各地で報告会が・・派遣団体、地域などで3・1ピキニデー報告会が開かれます。参加者は「さあ、報告会頑張る」と決意新たに北海道に帰ってきました。

〽 〽 ヒバクシャ署名をすすめる北海道民の会 〽 〽
署名の共同すすむ

40万人以上の署名

◎北海道平和運動フォーラムから約4万人の署名が。北海道自治労と北教組が取り組んでいます。難波優事務局長は先日の事務局会議で、道内の地域の共同の動きを教えてください。

◎1月15日から署名スタートしたコープさっぽろは21万6千人の署名集約。目標を20万人から40万人に引き上げると川原敬伸北海道生協連事務局長が報告しました。

